発表項目

1. **芦別慈恵園のあゆみ**
   設立から現在までの重要な出来事をご紹介
2. **すごいよ！芦別慈恵園**
   私たちの施設の特徴や誇れる点について
3. **これからみんなで取り組むこと**
   今後の目標や計画についてご説明
4. **サービス目標と重点項目**
   具体的なサービス向上のための取り組みをご紹介

芦別慈恵園のあゆみ

創立の歴史

1. **昭和45年2月1日**
   特別養護老人ホーム芦別慈恵園設立。定員50名、職員18名でスタート。
2. **中野重雄理事長の思い**
   地域の高齢者を支える拠点を作りたいという願いから始まりました。
3. **翌年の拡大**
   翌年には定員100名、職員38名に拡大。地域のニーズに応えました。

平成初期の挑戦

1

平成2年の危機

年間在園者数が激減する大ピンチに直面。
措置時代の厳しい状況でした。

2

平成7年の広報活動

広報誌「慈恵園だより」創刊号を発行。
現在は「広報誌えがお」として継続中です。

3

平成9年の地域貢献

在宅ケアのための料理教室を開始。
地域との繋がりを深めました。

創刊号

慈恵園だより

発刊にあたり

芦別慈恵園紹介

在宅介護教室

介護相談事業を開始

新施設への移転

平成13年8月19日

現在の建物に移転。
定員106名
短期入所6名

平成14年4月

デイサービスセンター
在宅介護支援センター
在宅部門を開始

サービス拡充

施設サービスだけでなく、地域全体の高齢者ケアを視野に入れた展開を始めました。

ケアステーション

ケア方針の転換点

平成14年の事故

ひまわり棟で車いすに拘束されたまま転倒事故が発生。大きな転機となりました。

気づきの瞬間

「自分の物差しでみていなかったか？」という問いかけが職員の意識を変えました。

個別ケアの開始

この出来事をきっかけに、個別ケア（ユニットケア）を開始しました。

平成15年～17年：
基盤づくりの時期

1 平成15年
武田先生よりご指導頂く

2 平成16年
居宅介護支援事業所開始

3 平成17年8月
単独型通所介護もみじの家開設

平成18年～20年：
サービス拡充期

1 平成18年3月
在宅介護支援センターを終了し、
訪問介護サービス開設

2 平成18年10月
配食サービス開始

3 平成19年9月
サテライト型居住施設
芦別慈恵園かざぐるま開設（特区申請）

4 平成20年
本体特養個室化工事終了

平成21年～24年：地域と共に

平成21年
ほのぼのソフト活用開始、大堀先生から動き出し
認知症通所介護もみじの家に変更

平成22年
かざぐるま地域食堂開設、男澤先生からもみ塾
創立40周年記念事業「なごみの丘」開始

平成23年
東北関東大震災支援ネットワーク、えがお塾開講

平成24年
旭グループ食堂改修工事、口腔ケア研修、
春圃苑との交換研修開始

平成26年～30年：地域連携強化期

1 平成26年
地域食堂70歳以上300円に変更、
芦別市医師会と嘱託医師契約

2 平成27年
福祉避難所に指定を受ける

3 平成28年～29年
サロンゆりの会開始、ユニットキーパー導入
介護職員初任者研修開講、さくらハイツ工事開始

4 平成30年
サービス付き高齢者向け住宅さくらハイツ開設

令和元年～3年：新時代への対応

平成31年/令和元年
複合型在宅サービス開始（芦別市と協議しながら）

令和2年
コロナウイルスに関わる感染症対策実施、
介護福祉士実務者研修開講

令和3年
人財育成研修（田原慎介先生）、
リモート環境整備

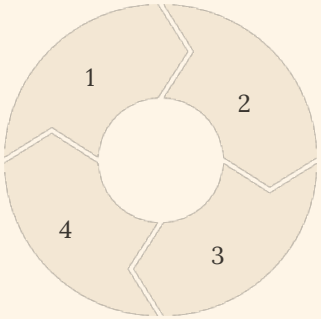
令和4年～5年：ICT化と国際化

ICT化の推進
かざぐるまICT化（ライフリズムナビ・インカム導入）、
業務省力化

コロナ対応
芦別慈恵園とかざぐるまでコロナウイルスクラスター発生

国際人材
ミャンマーより特定技能介護人材5名受入れ

令和6年～7年：連携と未来への展望



医療連携強化
医療連携協定締結（市内医療施設＋あかびら市立病院）

業務効率化
業務省力化・日誌等電子決裁（ペーパーレス化開始）

施設再編
旭グループ24床
地域密着型介護老人福祉施設に変更

国際人材
フィリピンより3名入国（特定技能介護人材）

すごいよ！芦別慈恵園

芦別慈恵園 業務連携ガイド：
みんなでつなぐ思いやりのサービス

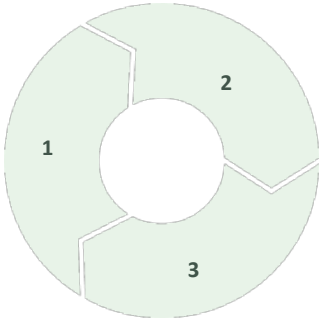
受賞歴が示す信頼と実績

昭和期の栄誉
天皇陛下より御下賜金（昭和49年）
北海道知事より給食優良施設表彰（昭和62年）

平成初期の評価
厚生大臣より優良集団給食施設表彰（平成5年）
赤レンガ建築奨励賞受賞（平成19年）

施設長と組織の功績
北海道社会貢献賞・厚労大臣賞（川邊施設長）
震災ボランティア派遣で厚労大臣表彰（平成26年）

お客様連携係：みんなをつなぐ架け橋



生活相談員
法人とお客様、地域をつなぐ

介護支援専門員
お客様らしい生活を目指す

作業療法士
リハビリで元気な毎日を

くらし係：笑顔を守る日々の取り組み

1. **笑顔を守る**
   お客様の笑顔を大切にする日々の支援
2. **小さな変化に気づく**
   細やかな観察で安心の生活を支える
3. **お客様目線で考える**
   できることを最大限に引き出す支援

地域連携室（健康係）：みんなの健康を見守る

体調管理のプロフェッショナル
法人の取り組みを理解し、お客様の体調を細やかに管理します。

家族の安心
ご家族に健康状態を伝え、安心感を提供します。

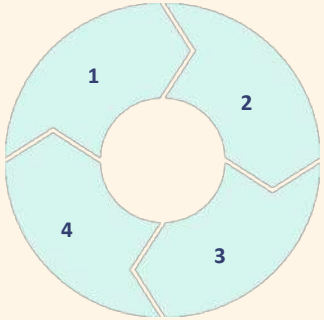
職員のサポート
職員の健康相談にも応じ、職場全体の健康を支えます。

栄養係：美味しさの追求者

美味しさへのこだわり
お客様に喜んでいただける食事を日々考案しています。季節の食材を取り入れ、彩り豊かな献立を作成します。

食材料費との戦い
高騰する食材料費に対応しながらも、栄養価と美味しさを両立させる工夫を行っています。無駄なく食材を活用する知恵を絞っています。

まねできない複合型在宅サービス



芦別市の理解

地域の特性に合わせたサービス展開を実現しています。

藤山係長の手腕

豊富な経験と知識で地域ニーズに応えています。

和顔愛語の精神

優しい表情と言葉でお客様に寄り添っています。

オールマイティな職員

多様なスキルを持つスタッフが柔軟にサポートします。

居宅支援係：自宅生活を支える力

1. **出会いの場**
   お客様がサービスと出会う大切な最初の窓口です。
2. **社会資源との連携**
   自宅での生活を支えるために様々な機関と連携します。
3. **定期訪問**
   毎月自宅を訪問し、お客様の様子を確認します。

経営係：施設を支える縁の下の力持ち

大切な窓口

慈恵園の顔として来訪者を温かくお迎えします。ただの事務ではなく、重要な接点です。

企画の達人

様々なイベントを企画し、職員とお客様に元気を届けています。

迅速な対応

レスポンスの速い用務員は施設の維持に欠かせない存在です。

。

キーパーさん：安心をもたらす存在

1. **多様な役割**
   お客様の見守りや送迎の運転など、様々な場面で活躍しています。
2. **安心感の源**
   その場にいるだけで周囲に安心を与える、頼もしい存在です。
3. **チームの要**
   施設内外の様々な業務をサポートし、チーム全体を支えています。

柔軟に頑張る稼働管理

1. **入院状況の週次確認**
   入院者の状況を各病院MSWに生活相談員が確認。
2. **空床の効率的活用**
   長期ベッドの空き予測に基づき、ショートステイの利用を調整します。
3. **迅速な入居対応**
   生活相談員が中心となり、新規入居をスピーディに進めます。
4. **全職種での柔軟な受け入れ**
   どんな状況でも受け入れが可能となるよう、全職種で協力します。

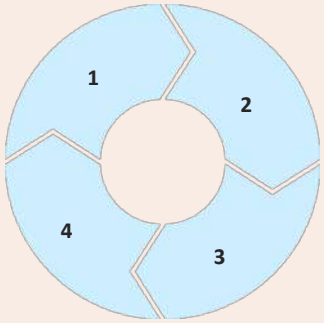
栄養ケアチーム会議の取り組み

多職種協働
それぞれの職員がお客様を中心に考えます。

食事ケアの充実
入居者様一人ひとりの嗜好と能力に合わせた食事を提供します。

継続的な見直し
定期的に計画を評価し、必要に応じて調整します。

人生の最期への配慮
尊厳あるお看取りについて、ご家族と共に考えます。



「動き出しはご本人から」の実践

お客様の主体性を引き出す
「○○できそうですか？」と尋ねることで、ご本人の意思を尊重します。自己決定の習慣が日々の生活に定着してきています。

スタッフも主体的に
介護場面だけではなく、スタッフ同士の前向きな声かけも大切にしています。互いに励まし合う文化を育んでいます。

個性を尊重する環境
一人ひとりの「やりたい」気持ちを大切に。自分らしく生きるための支援を心がけています。

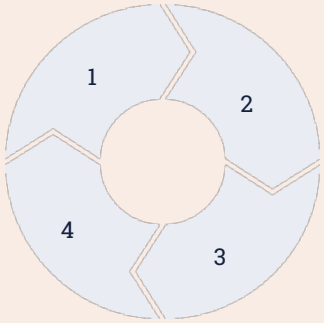
地域のえがおを大切に

えがお塾・地域食堂
地域の方々との交流の場を提供

配食サービス・なごみの丘
生活を支える地域貢献活動

介護職員研修プログラム
未来の介護を担う人材育成

まちづくり講演会
市民が元気になる講演を



情報発信で広がる笑顔の輪

ホームページ

施設の基本情報や最新ニュースを掲載しています。スマホでも見やすいデザインです。

インスタグラム

日々の活動の様子を写真付きで発信しています。若い世代への訴求に効果的です。

広報誌えがお

季節ごとに発行し、地域の方々に配布しています。入居者様の作品も紹介します。

地域メディア連携

道新かわら版などのメディアと連携し、取り組みを広く伝えています。

これからみんなで取り組むこと

今一度理念を確認しよう

基本理念：和顔愛語

穏やかな表情と優しい言葉で人に接すること。自分自身が笑顔で接し、思いやりのある言葉を使い、日々の小さな優しさを積み重ねることから始まります。

経営理念

地域・家族・利用者のニーズに応える事業展開と安定経営。人材・介護力・環境を整備し、持続可能な施設運営を目指します。

介護理念

一人ひとりの生活を大切にし、最期まで尊厳ある支援を。口から食べる食事の工夫や、ご家族と一緒に看取りを行うことで、その人らしい生活を支援します。

中長期計画

私たちの中長期計画は、2050年の芦別の姿を見据えながら策定されています。人口減少が進む中でも、市民が笑顔で暮らせる地域づくりを目指しています。

2025-2029年計画

4つの基本姿勢と7つの柱を軸に取り組む具体的な期間（第9・10期介護保険計画期間）

市民の笑顔

私たちの行動の原点となる価値

2050年の芦別

人口減少社会の中でも豊かな未来の地域社会を目指して

たとえば…

1 **目標設定**
車を買いたい！

2 **支払い方法**
一括？分割？

3 **準備計画**
一括なら積立など
分割なら何年で支払うか計画します。

中長期計画：経営目的

1

私たちの使命
人口が減少しても"芦別で自分らしく"安心して暮らすことができるように、法人としての役割を果たします。地域のニーズに応え、持続可能な介護サービスを提供することが私たちの使命です。

2

地域での生活支援
お客様が家や地域で楽しく、安心して生活できるように、みんなで助け合う仕組みづくりを考え実行します。これは地域包括ケアシステムの実現につながる重要な取り組みです。

3

ケアの質の向上
自分らしい生活を追求し、ケアの質を研鑽します。一人ひとりの尊厳を守り、個別ケアを実現することで、お客様の生活の質を高めていきます。

中長期経営方針

1 **市民が笑顔で暮らせるように考えて行動する**
私たちの経営方針の核心です。幹部職員は各係、事業所の責任者として経営を意識し、この方針に基づいて行動します。

2 **ニーズに応じたサービス提供**
介護保険に限らず、お客様が必要とするサービスを考え提供します。制度の枠にとらわれず、真のニーズに応えることを目指します。

3 **法人内ノウハウの活用**
地域や施設で安心していきいきと過ごすことができるよう、法人内のノウハウ等を活用し実行します。蓄積された経験と知識を最大限に活かします

4 **将来への備え**
介護保険計画期間を意識し、これから予測されることに対して備えます。事業計画や資金計画を適切に策定し、持続可能な運営を確保します。

経営基盤の強化

責任者の経営意識向上
各係の責任者は収支を意識した業務設計を行います。経営参画により運営効率を高めます。

ICT導入の推進
2029年までに特養部分へICTを計画的に導入します。業務効率化とサービス向上を実現します。

設備の近代化
2027年の蛍光灯生産終了に先立ち、施設内照明をLED化します。環境配慮とコスト削減を図ります。

サービス品質の向上

サービス評価の実施

自己評価または第三者評価を定期的に行い、お客様と家族の満足度向上に努めます。

業務の標準化

全専門職・役職で業務手順書を策定します。標準化された手順を職員に周知し、定期的に見直します。

専門知識・技術の向上

体系的な教育・研修プログラムを策定し、継続的に実施します。職員の専門性を高めます。

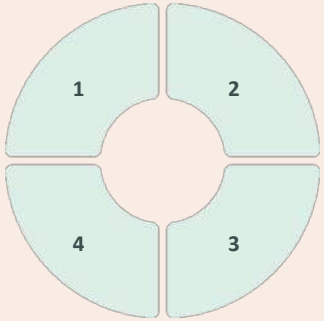
地域との連携強化

地域ニーズの把握

現行事業の評価と地域ニーズの定期的な調査を行います。

地域交流

地域住民との交流イベントを定期的に開催します。



サービス展開

高齢者にこだわらない多様なサービスを展開します。

公益的取り組み

こども食堂など地域全体を支える活動を推進します。

人材育成と確保

1 **福祉教育への協力**
小中高校での福祉教育に積極的に協力します。将来の人材確保につながる「知る・体感」の機会を提供します。

2 **新人教育の強化**
採用後3年未満の職員へのフォローアップ体制を整備します。定着率向上を目指します。

3 **リーダー層の育成**
法人理念を実践するリーダーを育成します。一般職員が憧れる役職者を育てます。

4 **幅広いニーズへの対応**
福祉分野を超えた知識と技術を習得します。多様な市民ニーズに応える人材を育成します。

《サービス目標》

お客様と職員がえがおでいられる様、

さぁ行こう！芦別慈恵園 Let's Go!
最高！芦別慈恵園 Best!
最幸！芦別慈恵園 Happiness!

さぁ行こう！最高！最幸！芦別慈恵園

みんなの小さな一歩

相談してよかった
地域から信頼される施設に

利用してよかった
お客様が幸せを感じる施設に

働いてよかった
職員が誇りを持てる施設に

重点項目：

- 体操と口腔ケア
  毎日の体操と口腔ケアで、入院しない身体づくりを進めます。
- 学習療法の実践
  お客様の小さな変化に気づく目を養います。心身の変化に敏感になりましょう。
- 空き部屋ゼロ
  地域に必要とされる施設として、常に稼働を意識します。
- 職員の健康
  職員が元気に働ける環境づくりを考え、実践していきます。

《サービス目標》

お客様と職員がえがおでいられる様、

さぁ行こう！
最高！！
最幸！！！　芦別慈恵園

社会福祉法人
芦別慈恵園